

# ガメラ対大魔獣ジャイガー (1970)

GAMMERA VS JIGER

メディア 映画

ジャンル ファミリー 特撮

製作国 日本

色彩 Color

時間 83分

初公開日 1970/03/21

## 【解説】

大阪万国博覧会にウェスター島の“悪魔の笛”と呼ばれる巨大石像が展示されることになった。崇りがあると言って強硬に反対する、島の文化使節ギボアの意見を抑えて運搬作業が行われる中、ガメラが現われた。作業を監督する考古学者ウィリアム教授の子トミーとスーザンは、友人の弘から聞かされているようにガメラは子供の味方だと主張するが、なぜかガメラは作業を妨害する。作業班は火山の噴火でガメラが火口へと向かった際に石像を運び出すが、石像からは“悪魔の笛”の名の通り、不気味な音が鳴り響いた……。石像と共に作業班が去ったウェスター島では、地中からジャイガーが復活をとげた。無人の島でガメラとの死闘が繰り広げられる。火炎攻撃でガメラが優位に見えたその瞬間、ジャイガーの角先から鋭い矢が飛び出しガメラの手足を貫いた。矢が邪魔になり手足を引っ込められないガメラは空を飛ぶこともできない。ジャイガーは仰向けに倒れたガメラを残し、石像のあとを大阪へと向かった。万博会場に運ばれる石像を追ってジャイガーが大阪に上陸した！ 町を破壊しながら会場に迫るジャイガー。必殺のマグネチューム光線の前では自衛隊も全く歯がたたない。ようやく矢を抜き回転ジェットで飛来したガメラとの間で再び激しい戦いがはじまる。一進一退の攻防のさなかジャイガーはガメラの体内に自分の卵を産み付けた。ガメラは体内で孵化したジャイガーの幼虫に血を吸われ海辺に倒れてしまった。ガメラの上半身がどんどん透明になっていく。もはや人類に助かる術はないかと思われたその時、1隻の小型潜水艇がガメラに向かった。トミーと弘がガメラを救うために乗り込んだのだ。ガメラの体内で二人の大冒険がはじまった！！

シリーズ第6作。いきなりガメラマーチではじまるオープニングは、これまでの戦いのフラッシュバック。しかし万博とのタイアップで制作されたこの作品は、前の2作品よりも制作費がかけられ、町の中で行われる戦闘は大迫力。敵方のジャイガーは正攻法の戦いではガメラにおよばないが、予想できない秘密兵器で次々ガメラを窮地に追い込む。これを救うのが2人の子供達。この作品の最も大きな特徴は“子供の味方”のガメラを、今度は子供が救うという点にある。一説にミクロの決死圏をモチーフにしたと言われるガメラ体内での冒険、大人達が対策に頭を抱えている中で次々にアイデアを出す所など、子供達にとっては心をくすぐられるシーンが盛り沢山の楽しい作品になっている。血を吸われたガメラが透明になったり、「超音波を武器にするジャイガーが低周波に弱いのは当然、これは寒いところに住むエスキモーが暑いところに弱いと同じだ！」などという説を唱える博士など、万博を中心にしている割には科学考証の無さが気になるが、制作費をかけたセットの甲斐もあり、楽しさの点でも“子供の味方4部作”の中で出色の出来と思われる。もちろん当時の映画に欠かせない“今のTVでは放映しにくいシーン”も忘れられてはいない。ガメラの体内にいるジャイガーの幼虫を説明するのに使われる“象の鼻に巣食う寄生虫”の資料映像は、映画を見に来た多くの子供達にその晩悪夢を見せたのではないだろうか。冒頭、時間をかけて万博の紹介をしている所などはタイアップならではの御愛敬だが、バイラス、ギロン、ジグラの3作品がいずれも宇宙をテーマにしているのに対して過去の文明を中心にすえたことで、ジャイガーの登場も比較的無理のないものに仕上がっているといえよう。なお、本作で「沢田圭介」を演じている炎三四郎は、のちに『仮面ライダーX』で「神敬介」を演ずる速水亮である。

## 【クレジット】

監督 湯浅憲明

製作 永田秀雅

企画	仲野和正	
脚本	高橋二三	
撮影	喜多崎晃	
美術	井上章	
編集	宮崎善行	
音響効果	小島明	
音楽	菊池俊輔	
特技・合成	藤井和文	
特技・撮影	金子友三	
特技・美術	矢野友久	
特技・操演	田中実	
特技・助監督	阿部志馬	
出演	高桑勉	北山弘
	ケリー・バラス	トミー
	キャサリン・マーフィ	スーザン
	炎三四郎	沢田圭介（万国博広報部員）
	平泉征	万国博警備員
	八代順子	北山みわ子（弘の姉）
	大村崑	北山良作（弘の父）
	フランツ・グルーベル Franz Gruber	ウィリアム（トミーの父）
	マーリス・ヘリー	エレン（トミーの母）
	夏木章	鈴木（国立科学研究所長）
	北城寿太郎	松井（海洋研究所長）
	槇俊夫	自衛隊司令官
	小杉光史	警察本部長
	仲村隆	万国博事務局長
	隅田一男	万国博通訳
	田中三津子	万国博事務員
	佐伯勇	山本（ウィリアムの助手）
	チコ・ローランド	ギボー（ウェスター島文化使節）